

歴史紀行

## 晋州は衡平運動の故郷

## 何とか参加できました

今回は、4月26日（土）午前中にマンション管理組合の臨時総会が開催されることになり、むくげ韓国合宿の参加を半ばあきらめていました。

しかし、4月26日の夕方に釜山に行き、市外バスターミナルのある沙上（ササン）で泊まり、27日（日）早朝にバスで晋州に向う計画を思いつきました！

実際に西部市外バスターミナル6:40発、1時間30分で8:10に余裕で晋州に到着しました。

（運賃12,000ウォン）ゆっくり歩いて8:30にはみなさんが泊まっているゴールデンチューリップナムガンホテルに到着しました。

## 晋州城 散策

9:00にバスに乗り込み5分で晋州城北門に到着。65歳以上は無料と喜んだが外国人はダメで入場料2000ウォンを支払う。ほぼ全員65歳以上。

壘（直が3ヶ）石樓（チョクソクル）と論介（ノンゲ）が敵将を抱いて南江（ナンガン）に飛び込んだとされる義岩（ヴィアム）を見学して、北門に戻りバスに乗り10:00に南江の南に移設した衡平運動記念塔に着くように向かった。

## 衡平運動記念塔

既に、申振均（シンジンギュン）衡平運動記念事業会理事長さんが待っていてくれました。

私は、去年12月に通訳の朴修鏡（パクスギョン）

さんが、申振均さんが学術委員長の時に作られたパンフレット「衡平の道」（2023年）を写真に撮りカカオトークで送ってくれたものを翻訳して勉強していた。

申振均さんは2024年から第6代理事長。

申振均さんは、初代会



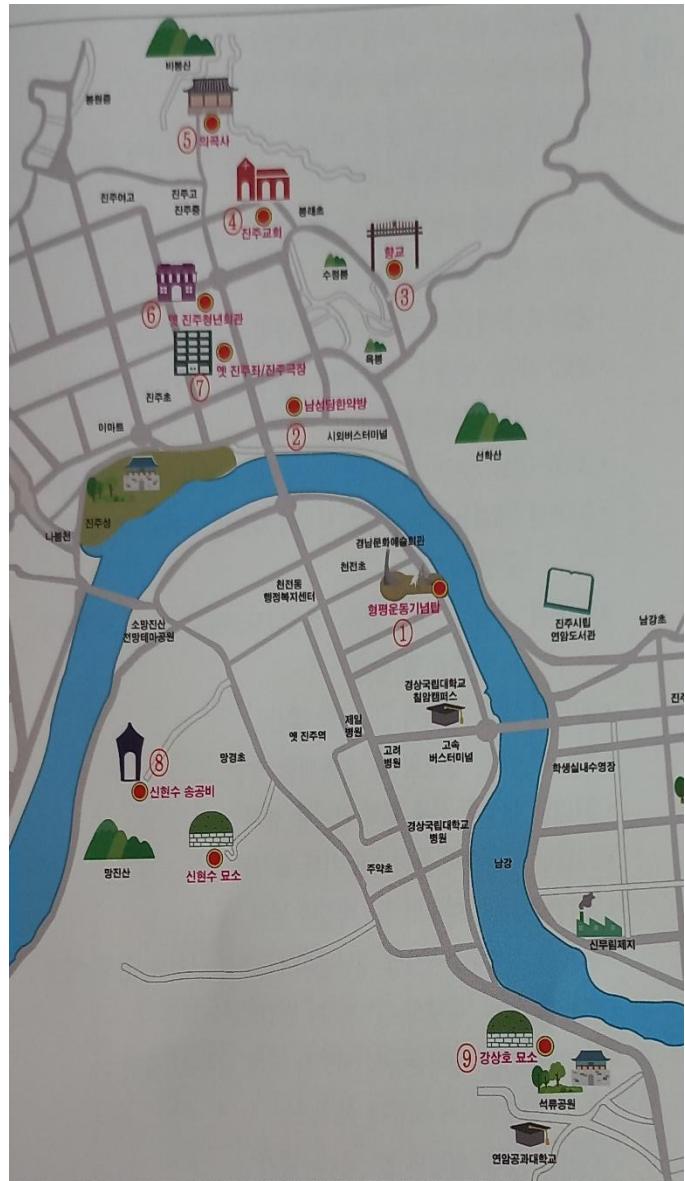
山根 俊郎

## 見学コース

① 衡平運動記念塔⇒⑨姜相鎬の墓所⇒②南星堂韓菴房（衡平運動記念事業会 金章河初代会長が経営）

今回回れなかった史跡

③晋州郷校、④晋州教会、⑤義谷寺、⑥旧 晋州青年会館、⑦旧 晋州座/晋州劇場、⑧申鉉壽 頌功碑



長である金章河（キムチャンハ・81）さんが1984年に100億ウォン超の私財を投じて晋州市に設立した明新高等学校（1991年に国家に寄贈したので現在は公立校）の教頭（教監）先生（58歳）であり、歴史学博士です。2005年から20年間も衡平運動記念事業会に携わっている、とのことです。

申振均理事長さんは、温厚な方で説明も分かりやすく、晋州出身だが、方言もなく通訳しやすかった。

右は、パンフレット「衡平の道」(16ページ) の表紙 2023年4月発行 編集：衡平歴史チーム申振均他 11名 衡平運動100周年記念 衡平の道  
われらは世界のすべての差別がなくなることを願う 人間を尊重して平等な世界を夢見る衡平運動記念事業会



衡平運動記念塔 「碑文」(翻訳：山根俊郎)  
碑文は、書芸家松山（ソルメ・スルヨ）千甲寧。  
公平は社会の根本である 愛情は人類の本良である  
1923年4月24日この地 晋州で‘秤(ばかり)’の‘衡’のように公平  
‘平’な社会を作ろうとした先覚者たちが集まり衡平社(ヒョンピョン  
サ・こうへいしや)を創立しました。

衡平社は、各地の会員に支えられて全国組織に育ち、1935年まで平等な社会を成し遂げようと活動を繰り広げました。

蔑視と冷遇に苦しむ白丁(ペクチョン)と彼らの境遇に共感した方たちが力を集めて広げた衡平運動(ヒョンピョンウンドン・こうへいいうんどう)は、数千年におよぶ身分差別の悪習をなくそうというわが國の人権運動の金字塔です。

誰もが公平に人間の尊厳を享受して互いに愛し生きる社会を作ろうとした衡平運動の高い理想は今日 未だに成し遂げられなかつた人類の夢として残っているが、その時の運動が際立っています。

今や、70余年前に暗く苦しい時代に聖なる人間愛の松明で燃え上がった衡平運動の精神を高めて、讃えて美しく花咲くことを望みながら志のある方々の熱意と真心を集めて、由緒深い晋州城の前にこの塔を建てます。

1996年12月10日 衡平運動 記念事業会

先ず、「門の形が、日本の神社の鳥居に似ている」といきなり内角高めの剛速球を投げ込まれた。

しかし、その後は、一転して門の柱のふくらみや柱に釘を使わない蝶番のデザインなど韓国の伝統的な建築様式を表現していると絶賛された。

また、柱の側面には、第6回(1928年)衡平社全



国大会のポスターの図案が彫られている。

結論的には、平等の門を出た男女（必ずしも男女だけではない）が平等と自由の柱である未来に向かって歩みはじめる、という意味だそうです。

以下にパンフレットの説明文を載せます。

彫刻した破刻（パカク）沈貞秀（シムジョンス）の解説、

“二本に並んだ柱よ 永遠の平等と自由の精神を高く称賛しよう。持つ者も 持たない者も 学のある者も 学のない者も 老人も 若者も 彼女も 彼も すべて この平等の門を出て行こう。両手をしっかりと握り 南江の前で 太陽に向かって 平等と自由があるだけだ。”

申振均さんは、何に見えますか？と質問されました。ソウルから参加された村山俊夫さんが「船の形に見える」と答えられました。

申振均さんは、「そうです。船に乗り記念塔が南江の波に乗って元の晋州城の前に帰りたいのです」と説明された。ここで私の通訳に宋連玉（ソンヨノギ）さんから物言いがつき「波に乗って」ではない。「波に抗って」です」 チェックしてくれて、感謝！

以下パンフレットの説明文

この記念塔は、1996年に晋州城の壘石門（チョクソクムン）の前に建てられた。これには平素、晋州城内に入ることができなかった白丁の恨（ハン）を解こうと言う意味が込められました。

その後 20年間市民たちに衡平精神を呼び起こしてきた記念塔は、2017年12月10日慶南文化芸術会館の付近へ移設された。

(壬辰倭乱 1592年)晋州大捷記念広場の造成工事が推進されたために記念塔は、「存置か、移転か」を巡って論争の末に「臨時」という但し書きをぶら下げる現在の位置に移されたのである。